

地域における非行防止活動の課題と大学の役割 —流山市における実践を通して—

室城 隆之

江戸川大学

Tasks of Delinquency Prevention Activities in Local Communities and the Role of Universities:
Through Practice in Nagareyama City

Takayuki MUROKI

要 約

本研究では、筆者が流山市で行った非行防止に関する講演会の内容とそれに対する参加者のアンケート結果および流山市の活動の変化を採り上げ、地域における非行防止活動の課題とそれに対する大学の役割について、小林(2002)の説明モデルを基に考察した。

その結果、地域における非行防止活動においては、公的機関が主導することによって、参加しているボランティアが主体性やモチベーション、活動に対する効力感を持ちにくいという課題があることが示唆された。

一方、大学はそのような課題に対して、教員が講演を行い、学術的に裏付けされたエビデンスを用いて活動の意義を明確に示すことや、参加者に主体性をもたせるため、教育活動で培われた技法を用いることなどによって、活動参加者の主体性、モチベーション、効力感を高めることに貢献する役割を担うことが可能であることが示された。

また、具体的ですぐに取り組むことができる対策を示すことも、課題の解決の方向性を示し、参加者のモチベーションを高めることが示唆された。

キーワード：地域、非行防止、大学、モチベーション、効力感

1 はじめに

大学における心理相談センターは、その役割の一つとして、講演会やセミナーなどの開催を通じて地域社会の人々に心理教育的な情報を発信する役割を担っている(室城, 2021)。江戸川大学心理相談センターにおいても、所属する教員はそれぞれの専門性を活かし、地域社会への貢献を行っている。

筆者は、臨床心理学、司法・犯罪心理学を専門としている。本論文では、筆者が流山市で行った非行防止活動に関する講演を採り上げ、地域における非行防止活動の課題と、それに対する大学の役割について検討する。

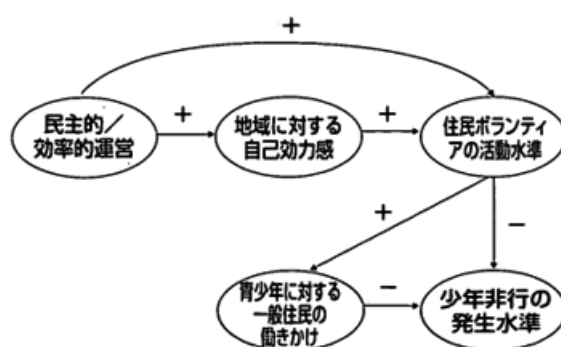
2 問題と目的

青少年の健全育成については、従来から地域社会における大きな課題の一つであった。2010(平成22)年4月1日には、社会生活を円滑に営む上で困難を有する子どもや若者を支援するための地域ネットワークの整備を主な内容とする「子ども・若者育成支援推進法」

(平成21年法律第71号)が施行され、地方自治体が行うべき事業として、ますますその重要性は増している。

このような青少年の健全育成事業の一つとして行われているのが、非行防止活動である。小林(2002)によれば、非行防止活動はその内容から、二つに分類できる。一つは、内的非行抑制因子を育むための活動であり、スポーツ活動、自然体験活動や社会奉仕活動などを通じて、道徳心、忍耐力、規範意識、法的な他者との愛着といった内的抑制因子を青少年の心の中に育むこと、すなわち適切な社会化を通して少年非行を防止することを目指すものであり、「青少年の社会参加活動」と呼ばれている。もう一つは、青少年が非行を行う機会を除去する活動であり、繁華街でピンクビラを取り除いたり、成人向け雑誌の自動販売機を撤去したりする環境浄化活動や、繁華街での街頭補導活動や、パトロールを行うものである。

これらの非行防止活動は、地方自治体や警察、学校、保護司などの公的機関とともに、地域住民によるボランティア活動がその担い手となっている。小林(2002)によれば、このような活動において、地域住民ボランティアが果たす役割は非常に大きく、地域住民ボラン



小林（2002）より引用

図1 説明モデル

ティアが主体的役割を果たしている地域ほど、非行防止活動における住民ボランティアの活動水準が高くなる傾向があるという。さらに小林(2002)は、図1の説明モデルを示し、非行防止活動の「民主的／効率的運営」がなされているほど、直接、または「地域に対する自己効力感」を向上させることを通して「住民ボランティアの活動水準」を高めることを示した。そして、それが直接「少年非行の発生水準」を低下させるとともに、「青少年に対する一般住民の働きかけ」を増加させることによって、「少年非行の発生水準」の低下につながることを示した。すなわち、地域住民ボランティアが積極的に活動に参加し、その活動をすることに効力感を感じることが活動の水準を高め、さらには地域の一般住民の活動への参加を促し、非行の発生を減じるというモデルである。

しかしながら、小林(2002)は同時に、実際に地域の非行防止活動の企画・運営において、地域住民ボランティアがどの程度、主体的に関与しているかは地域差がかなりあることを指摘している。地域住民ボランティアが主体的に関与していない地域では、「公的機関が活動の企画・運営の主導権を持ち、住民ボランティアは公的機関の意向に追従するだけ」になっているという。そのような場合に、どのようにして地域住民ボランティアが積極的に活動に取り組み、効力感を感じることができるようになるかについて小林(2002)は、「各住民ボランティアが活動を通して、地域に対する自己効力感を高めることが出来るように十分配慮しながら、活動が運営されることが必要であり、住民ボランティア個々人のエンパワーメントを重視することが強く求められている」、「関係する公的機関は、住民参加者の自主性やニーズを尊重した働きかけを行うことが重要である」という方針を示しているが、その具体的な方法については示していない。

そこで本研究では、筆者が流山市で行った非行防止活動に関する講演を事例として採り上げ、地域における非行防止活動の課題と、それに対する大学の役割について検討することを目的とした。

3 方 法

筆者が流山市で行った非行防止活動に関する講演を事例として採り上げ、参加者の反応をアンケート結果およびその後の活動の変化から検証する。

(1) 講演の背景と目的

筆者は、流山市教育委員会生涯学習部生涯学習課青少年指導センターからの依頼を受け、2021年2月1日に開催された流山市青少年社会環境浄化事業(青少年ふれあい運動)の第3回地区活動実行委員会の際に、講演を行うことになった。「令和元年度流山市青少年社会環境浄化の手引き」(流山市教育委員会生涯学習部生涯学習課青少年指導センター、2020)によれば、この事業は、青少年の健全育成及び非行防止のために、青少年にとってよりよい社会環境の整備を行うとともに、青少年を取り巻く大人達の健全な養育態度への認識を深め、地域・家庭の教育力の向上を図ることを目的としたものであり、流山市教育委員会と表1に示すような団体で構成された流山市青少年社会環境浄化推進委員会から構成されている。また、地区実行委員会は、表2に示す9つの地区から構成されている。

活動内容は、図2に示すように①店舗調査・店舗利用状況調査、②地区活動、③広報・啓発活動の3つから構成されている。①店舗調査・店舗利用状況調査は、各地区の小売店や携帯電話店、カラオケ店などに対し、小・中・高生別に来店状況、たむろ状況やマナー、万引きとそれらへの対応についてのアンケートを配布し

表1 流山青少年社会環境浄化推進委員会

- ◆流山市民生委員児童委員協議会
- ◆柏地区保護司会流山支部
- ◆松戸人権擁護委員協議会流山部会
- ◆流山市小中学校校長会
- ◆流山市学校警察連絡協議会
- ◆流山市青少年相談員連絡協議会
- ◆流山市PTA連絡協議会
- ◆流山市青少年指導センター補導員連絡協議会

表2 地区活動実行委員会

- ◆南流山地区
- ◆南部地区
- ◆東部地区
- ◆八木地区
- ◆東深井地区
- ◆北部地区
- ◆常盤松地区
- ◆西初石地区
- ◆おおたかの森地区
- ◆おおぐろの森地区

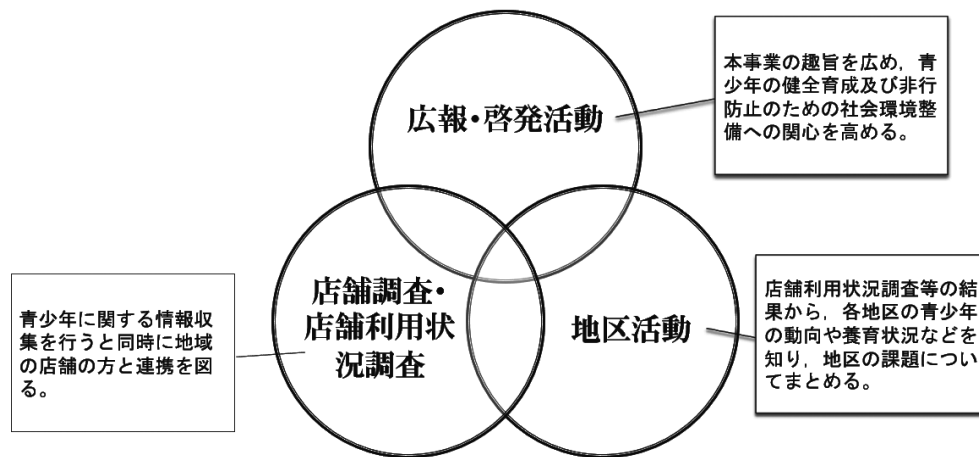


図2 流山市青少年社会環境浄化事業（3つの活動）

て回収するとともに、有害図書を扱う店舗などを調査し、青少年に関する情報収集を行うと同時に、地域の店舗と連携を図る。②地区活動は、店舗調査・店舗利用状況調査の結果から、各地区の青少年の状況や養育状況などを知り、地区の課題についてまとめる。③広報・啓発活動は、本事業の趣旨を広め、青少年の健全育成及び非行防止のための社会環境整備への関心を高める。

年間の事業スケジュールは、表3のとおりであり、実行委員会のメンバーは地区ごとに、まず、①店舗調査・店舗利用状況調査を実施し、次にその結果を報告書にまとめる形で②地区活動を実施していた。

その後に行われた第3回実行委員会において、筆者が講演を依頼された。

表3 流山青少年社会環境浄化推進委員会
(令和2年度年間スケジュール)

- 2020.9.24 第1回実行委員会
- ⇒10月～11月 実行活動(店舗調査・店舗利用状況調査)
- 2020.10～12 第2回実行委員会
- ⇒2021.1 報告書提出
- 2021.2.1 第3回実行委員会

表4 本講演の内容

Ⅰ. 活動を振り返る

Ⅱ. 最近の非行少年の特徴

Ⅲ. 地域による非行防止活動の意義について

Ⅳ. 流山市青少年社会環境浄化事業の意義と課題

(2) 講演の構成

講演に先立って行われた流山市の担当者との打ち合わせで筆者は、担当者から「この活動がどうしても行政主導になってしまい、参加者の主体的な参加が難しいので、参加者の主体性を高めたい」との依頼を受けた。

そこで筆者は、約1時間30分の講演を、表4のように構成することとした。

まず、第1に、これまでの活動を振り返ることによって参加者が行ってきた活動を確認し、自分達が行ってきた活動の意義と達成感を感じられるようにしたいと考えた。そこで、最初にこの活動の目的を確認し、それから参加者が自分達の活動の結果を各地区でまとめた店舗調査・店舗利用状況調査の集計をグラフの形で示した。そのうえで、まず参加者個人で5分間、この活動と自分について①この活動になぜ参加したのか、②この活動で何をしたかったのか、③それはどの程度達成できたか、④達成できなかったことは何か、その理由は何か、⑤今後、この活動に取り組む場合の課題は何か、について振り返ってもらい、その後5分間、グループでそれをシェアしてもらうことにした。

次に、この活動の振り返りとして、①この活動の意義をどこに感じるか、②この活動の問題点は何か、③今後はどうつなげていくかについて、同様に個人で5分間振り返ってもらった後、5分間グループでシェアしてもらうこととした。

第2に、令和2年版犯罪白書と「千葉の少年非行」2019年度版からのデータを示し、最近の少年非行の特徴として、①抑制がきかない子どもたち、②インターネット非行、③非行の潜伏化について説明することにした。特に非行の潜伏化については、以前のように反抗を表に現した非行は少なくなっている一方で、攻撃性は潜伏し、子どもたちの様子がわかりにくくなっていることを伝え、青少年社会環境浄化事業の難しさと子どもたちの現状を知るうえでこの事業が重要であることについて説明することにした。

第3に、小林(2002)に基づき、地域による非行防止

活動の意義について説明することにした。特に、図1の説明モデルを提示し、この活動の中核的な参加者が主体的に活動に参加し、その活動の意義、効力感を感じられることが一般住民への働きかけにつながり、最終的には少年非行の発生を抑制することについて説明することにした。

そして第4に、流山市青少年社会環境浄化事業の意義として、①青少年の現状を知ることができること、すなわち、非行が潜伏しやすい現代の状況の中で、この活動による調査結果は貴重なデータとなること、②各店舗による青少年の非行防止への意欲を高めることができること、すなわちこのような活動は、各店舗の人達が青少年の現状に関心を持つきっかけとなり、このような活動がなくなれば意識は低くなることを指摘することとした。また、この事業の課題として、①様々な機関の参加者が参加していることを効率的に活かすこと、②参加者がこの活動の成果を実感し、達成感、自己効力感を感じることができること、③この活動の参加者だけでなく、広く一般住民にこの活動への関心を持ってもらうことを挙げることにした。

(3) 広報資料(かわら版)の作成の提言

そのうえで、筆者は、それらを解決するための一つの方策として、広報資料(かわら版)の作成を提言することとした。

この提言の背景には、流山市青少年社会環境浄化事業の3つの活動内容のうち、①店舗調査・店舗利用状況調査および②地区活動は実施されているものの、③広報・啓発活動については十分に実施されていないことがあった。これまでの広報・啓発活動は、流山市のホームページに活動内容が掲載されていたものの、それ以外の活動は見られなかったことがある。この活動の課題である「この活動の参加者だけでなく、広く一般住民にこの活動への関心を持ってもらうこと」はできておらず、この活動は一部の人にしか知られていない状態であったのである。その結果、参加者もこの活

動の意義を感じる事が難しく、モチベーションが低くなりがちであり、行政機関への依存性も高くなっていることが考えられた。

筆者が提案した広報資料(かわら版)の作成は、これらの課題を解決することを目的としたものである。すなわち、その目的は、各地域の活動結果を踏まえて、地域住民の青少年非行防止活動への意欲を高めることにあり、方法としては、各地域の活動結果をまとめ、各地域でA4用紙1枚程度の広報資料を作成する。そして、それを各参加者がそれぞれの機関などの活動範囲で配布するなどして活用するというものである。それによる効果として、第1に、広報資料(かわら版)の作成という目的に向かって、参加者がそれぞれ自分の能力を活かして協働作業をすることができる。それが、参加者のモチベーションを高めることや、自己効力感につながる事が期待できる。第2に、作成された広報資料(かわら版)をそれぞれの活動場所で活用することによって、さまざまな機関、立場の人が参加していることを活かすことができる。第3に、多くの住民に広報することができ、より広く一般住民の非行防止への意識を高めることができる。第4に、それによって、参加者が活動の成果を実感でき、自己効力感を高めることが期待された。

(4) 講演後のアンケートの実施

講演後、主催者である流山市教育委員会生涯学習部生涯学習課青少年指導センターが参加者に地区活動実行委員会振り返りアンケートを実施し、筆者はその結果をシェアしていただいた。

4 結 果

(1) 講演の実施状況

講演は、2021年2月1日14時30分から16時10分に流山市生涯学習センターで実施された、「流山市青少年社会環境浄化事業第3回地区活動実行委員会」の中で行った。参加者は、本活動の推進委員3名、実行委員89名、および流山市教育委員会生涯学習部生涯学習課青少年指導センター職員であった。

方法は、筆者が作成したパワーポイント資料を投映しながら説明する形で実施した。新型コロナウイルス感染防止対策のため、振り返り部分は、グループでのシェアを行うことは避け、筆者が何人かの参加者に振り返りのシェアを求める形で実施したほかは、当初の予定通りに講演を実施することができた。

(2) 講演後のアンケート結果

講演後に実施された振り返りアンケートでは、89名

中74名から回答があった。その結果をカテゴリー別にまとめ、表5に示す。

①活動の意義の理解

回答には、「役員で自動的に担当になったので、正直なところどの程度役に立っているのか、という思いがありました。今日の先生のお話を聞いて、データの集積の一端を担っていること、この活動により、わずかでも意義があることが感じられました。」「少年非行の発生を抑制することにつなげていける活動の大切さを痛感しました。」など、活動の意義の理解に関わる感想が多く寄せられた。

②自己効力感の増加

また、「今回の講演を通して、自分たちがやっていたことはいいことだったんだと、自信が持ててよかったです。」「私たちの活動を後押ししていただいた感じがして、心強く思いました。」など、この活動に関わっている自分自身の効力感が増したことについての回答も見られた。

③広報の重要性の理解

さらに、「今までの自分達の活動が地域のためになるよう、それぞれの場でアウトプットし、一般住民に広く知ってもらふことの大切さを知ることができました。」「来年度、実際に広報誌を作成して、学校や店舗に配付して共有できると、より活動の効率が上がると思いました。」など、この活動の課題として筆者が講演で提言した広報活動の重要性についての回答も多く見られた。

④今後の活動への決意

そして、「地域の方との連携を深め、これからも活動していきたい。」「今後も地域の子どもたちに声かけや見守りなどを通じて、自信を持って主体的に関わっていきたいと思います。」など、今後の活動への意欲を示した回答も多く見られた。

⑤地域の理解・非行の状況の理解

これらとは別に、「地域の実情を知る機会を得られて良かった。」「最近の子どもたちの非行についての傾向を知ることができました。」など、筆者が講演で提示した地域や現代非行の現状についてのコメントも見られた。

⑥今後の課題

アンケート結果の中には、「調査結果をどう活かしていくか、おのおのの立場で行えば良いのだろうが、その内容や結果を交流することも大事ではないか。」「非行が潜伏化する傾向が強くなる中で、どのような活動をすれば非行の抑制になるのか考える必要があると感じた。」など、この活動の課題について触れたものも見られた。

表5 アンケートの回答

カテゴリー	具体例
活動の意義の理解	<ul style="list-style-type: none"> このような調査の必要性、地区活動の大切さを感じました。 地区活動を通して得たデータを分析して、現状を知ることには大きな意義を感じます。しかし、それらのデータを使った具体的な活動の見直しや提案がなかったことが反省点として感じています。 意義を感じにくいこの活動について、活動の意義や重要性を説いてくださって嬉しかったです。 達成できたこと、課題をあらためて考えることができた。 学校PTA本部役員で自動的に担当になったので、正直なところどの程度役に立っているのか、という思いがありましたが、今日の先生のお話を聞いて、データの集積の一端を担っていること、この活動により、わずかでも意義があることが感じられました。広報について考えていきたいです。 この調査で店舗の方々の意欲、関心を高められる。 とてもわかりやすい意義のある講演会でした。少年非行の発生を抑制することにつなげていける活動の大切さを痛感しました。 大変良かった。次年度も引継ぎ、活かしてほしいです。 全地区の実行活動をまとめた資料を見ることができて、とても参考になりました。この活動をより意義のあるものにするための提案もうかがえてよかったです。 毎年、活動に参加(5年ほど)していますが、今年の江戸川大学の先生の話を開けたことにより、私たちの活動及び役割や結果についてより深く理解することができました。良い話だった。 地区活動による調査活動は、お店の人たちが子供たちの現状に関心を持つきっかけになり、とても良い活動だと思う。調査活動をするることによって、少年非行の発生が抑制できればいいと思う。 講演を聴いて、今回行った活動がもっと充実したものになれば良いと感じました。大きな意義を持っているので、これをもっと地域住民に広げて行ければ、より「地域で子供を育てる」ことができると感じました。 本活動の意義を改めて見直すとともに、今後の課題の解決の糸口が見えたように感じた。コロナ禍であったが、活動に関わることができてよかった。今後ともできる限り尽力していきたい。 この活動の意義がよく理解できました。調査は必要だと思いますので、後任の人へもきちんと引き継いでおきたいと思いました。帰ってから、まずは先生のお話を家族に伝えたいです！ この活動の意義と課題がよく理解できた。店舗調査など、手間がかかるので、意味があるのかと思うことがあったが、役にたっていて良かった。かわら版はいい案だと思った。 室城先生の話は大変参考になりました。意義が理解できました。 講演の内容が、社会環境浄化事業の意義や広報活動の大切さなど、活動の振り返りにぴったりだったと思いました。同時に、活動前にこの講演を聞きたかったという気持ちにもなりました。
自己効力感の増加	<ul style="list-style-type: none"> 少年非行防止活動への意欲が高まった。一人の力ではなく、地域にも働きかけて、取り組む必要性を感じる会であった。 有意義な時間でした。「どうすればいいのだろう。」と行きづまった気がしていましたが、これからの取り組みの手がかりがいただけました。 地域の状況をよくしていきたい意欲を高めて、活動していきたいと思いました。 今回の講演を通して、自分たちがやっていたことはいいことだったんだと、自信が持ててよかったです。 最後に先生がまとめてくださったので、自分のやっているのが何であるのか分かった。とても良かった。 私たちの活動を後押ししていただいた感じがして、心強く思いました。店舗調査も次回からがんばりたいと思う。
広報の重要性の理解	<ul style="list-style-type: none"> 広く、浅く、地域住民に広報を強化することが重要だと思った。 地域での活動で、見守りなどに役立ってます。広報資料作成し、自治会員にも知らせる事の大切わかりました。 活動したこと（青少年環境浄化）と一般のPTA会員に配布できるといい。 地域と一緒に指導していくことの重要性がわかった。 今までの自分達の活動が地域のためになるよう、それぞれの場でアウトプットし、一般住民に広く知ってもらうことの大切さを知ることができました。 この活動を代表の方だけではなく、一般の方にも知ってほしい!!と思っていたので、かわら版はいいですね！ ただ活動をやるのではなく、青少年の一般住民に働きかけることの重要性を感じました。 来年度以降の地域への広報活動へ力を入れる必要があるのをしれて良かった。 広報は重要との結果になり良かった。 来年度、実際に広報誌を作成して、学校や店舗に配付して共有できると、より活動の効率が上がると思いました。 講演会にもあったとおり、一般の方々にも活動を知ってもらう必要を強く感じました。学校や補導員の方々の活動だけでは厳しい部分があると思いました。 このような活動を多方面で広めていきたいと感じた。広報活動の強化が重要である。
今後の活動への決意	<ul style="list-style-type: none"> パトロール活動をして、地域活動に貢献して行けたらと思います。 今後も地域の子どもたちに声かけや見守りなどを通じて、自信を持って主体的に関わっていききたいと思います 地域の方との連携を深め、これからも活動していきたい。 PTAですので、運営委員会便りなどにもしっかり反映させていただき、保護者に周知していきます。 店舗ごとの詳しい内容もまとめてあるので、来年度に向けて話し合えば良いと思います。 室城先生のお話はとてもわかりやすく理解できました。今回のレジメを再度見て、来年度に活かしていきたいと思います。 今回の活動は非常に参考になりました。今後は地域の方々1人1人に意識できる世の中に働きかけていくよう努力したいと思っています。 講演会で提言があったように、調査結果を地域の人々や校内児童、生徒、保護者へアウトプットする必要性を感じていたので、今後そうしていけるようになると良いと思いました。

地域の理解	<ul style="list-style-type: none"> ・流山市の地域のことがよく分かった。 ・学校外のことに目を向け、外からの視点で良く見ることができ、どのように地域の方が見ているかを知ることができた。今後の教育活動に活かしていきたいと思う。来年度以降もこのような活動が行われていることを確認し、取り入れていきたいと思う。 ・地域の実情を知る機会を得られて良かった。 ・今年度の店舗利用状況の様子が資料、プロジェクターによってよくわかった。本日の講演会は、今後の地区活動実行委員会の活動にとっても参考になる内容だったと思う。 ・各地区の状況が分かったのが良かった。お話が良く来年度の活動につなげられたと思いました。 ・各地区それぞれ調査に対してみなさんで取り組んでいる様子が資料を見てよく伝わりました。また、講演内容もディスカッション式でただ聞くだけの内容ではなかったのが良かったと思います。
非行の状況の理解	<ul style="list-style-type: none"> ・心理学内容から非行行動を知ることができて、良かったです。 ・最近の子どもたちの非行についての傾向を知ることができました。 ・各地域の実態を知ることができて良かった。自分の持っているイメージとの差を感じた（イメージよりも非行が少ない）。 ・最近の非行の現状がよく分かった。 ・抑制のきかない子どもたちが現代の非行で多いことを知り、我慢だけをさせるのではなく、相互に納得のいく感覚を創り上げるよう、教育現場で精進していこうと考えた。また、表に出てこない非行に対して気付くことができるよう、観察力を高めたいかなければいけないと感じた。 ・最近の少年非行の実態を理解することができた。
今後の課題	<ul style="list-style-type: none"> ・活動内容の精選が必要だと思います。学校の先生も、毎年変わる（2年おきとか）生徒指導主任にすると、情報がうまく伝わっていかない。 ・調査結果をどう活かしていくか、おのおのの立場で行えば良いのだろうが、その内容や結果を交流することも大事ではないか。 ・すべての地区の方が集まったので、何らかの形で情報共有ができればと思います。ただ、コロナという状況下で開催方法等の課題もあるのかなと思いました。 ・この活動が始まるときに聞けた方が良かったかなと思いました。すでに活動した人たちが聞く内容ではないような・・・。 ・コロナに鑑みて、更に広い場所にすべきではないか。 ・今の子供達の状況はかなり変化しているので、子供達を助けるためには方法を変えた方が良いと思う。 ・非行が潜伏化する傾向が強くなる中で、どのような活動をすれば非行の抑制になるのか考える必要があると感じた。 ・本日の講演では、少年非行に対し、改善のアクションプランを考え、実際に行動に移すことが大切だと思いました。なぜなら、少年の非行は確かに、目に見える暴力行為から目に見えないSNSでの暴力や、子供YouTuberの問題行為などに様変わりしてしまったからです。常に呼びかけ、店舗側の意見も尊重して、子供を見守る目を絶やさないことを、自分もしていきたいと思いました。 ・家庭の見守りにどう活かすか考えました。 ・非行問題を本気で考えるのであれば、もっと緻密な計画と行動がこれまでに足りていないと感じました。けいさつ、自治体との連携もとれておらず、このままでは減るのは難しいと思った。 ・PTAの代表を1年間参加させていただき、ありがとうございました。昨年度参加した方からの引継ぎ（メモ）からも感じましたが、父兄に伝えられていない、次年度への引継ぎができていないという話が出ていました。今年度も同じ話を話されていて、改善されていないことが気になります。サービス業で働いており、活動はそれとなく知っていましたが、店側でこの活動が伝わっていないと感じています。それぞれの店での子供達への心配はしておりますが、意味のある活動になればと期待しております。
講演の意義	<ul style="list-style-type: none"> ・室城先生が話されたような内容の講演を、これまで聞くことがなかったので大変有益であった。 ・講演はとももしっかりと準備されて行われありがとうございました。 ・有意義な話が聞けて良かったです。 ・講演の中で今年度の活動のまとめや振り返りなど、自分を通してこの運動を通して体感することができて、よく考えられていると思います。活動の重要性をお話を通して理解はできました。講演の内容的には、思っていたことを代弁していただいたという印象です。 ・根拠に基づいた活動の大切さを学ぶことができた。 ・とてもためになる話でした。わかりやすく、聞き取りやすかったです。 ・地区活動の持つ意義や価値づけなどが、学問的に裏付けられたり、意味づけられたりされることは、とても良かった。やはり、学術上に導かれた知見による理論づけは大切だと思った。 ・実際の活動を見て、私たちが何をすれば非行防止につなげられるかをわかりやすく話してくださり、興味を持って聴くことができました。本日の振り返りを通して、店舗だけではなく公園や道路等のマナーについても実情を共有できれば、もっと良いと感じました。 ・大学の先生からのお話があり、勉強になることや、納得することがあった。先生からのお話があったとおり、自分も周りに広める手段としてかわら版のようなものが必要だと思った。 ・講義があつてとてもよかったと思います。できれば一回目でやってほしかったです。
その他	<ul style="list-style-type: none"> ・コロナにより子供も大人もストレスを抱えている。人に対してやさしい気持ち、おだやかな気持ちでいたいと思った。 ・コロナじゃなかったら、小グループに分かれて話し合いたかった。

⑦講演の意義

これらに加え、「先生が話されたような内容の講演を、これまで聞くことがなかったので大変有益であった。」「地区活動の持つ意義や価値づけなどが、学問的に裏付けられたり、意味づけられたりされることは、とても良かった。やはり、学術上に導かれた知見による理論づけは大切だと思った。」など、筆者の講演の意義に関する回答も見られた。

(3) 講演後の流山市青少年社会環境浄化事業の状況

本講演後、流山市教育委員会生涯学習部生涯学習課青少年指導センターでは、令和3年度流山市青少年社会環境浄化事業の重点目標として「地域の大人として子どもたちの健全な育成のために何ができるか」を掲げ、具体的な活動としてこれまでの地区活動に「活動の結果をアウトプットする場を作る」を追加し、令和4年3月までに各地域で実行活動の結果を踏まえた広報資料「かわら版」を作成することとした。そして、既にいくつかの地区では、「かわら版」を作成している。（「令和3年度流山市青少年社会環境浄化の手引き」（流山市教育委員会生涯学習部生涯学習課青少年指導センター、2021））

5 考 察

本研究では、筆者が流山市で行った非行防止活動に関する講演を事例として採り上げ、地域における非行防止活動の課題と、それに対する大学の役割について検討することを目的とした。

(1) 地域における非行防止活動の課題について

本研究で採り上げた流山市青少年社会環境浄化事業（青少年ふれあい運動）は、小林(2002)が示した2種類の非行防止活動のうち、「青少年が非行を行う機会を除去する活動」に当たる活動である。小林(2002)によれば、このような活動は、公的機関とともに地域住民によるボランティア活動がその担い手となっており、このような活動においては地域住民ボランティアが果たす役割は非常に大きく、地域住民ボランティアが主体的役割を果たしている地域ほど、非行防止活動における住民ボランティアの活動水準が高くなる傾向がある。

しかしながら、筆者がこの活動における講演を依頼された際、市の担当者から「この活動がどうしても行政主導になってしまい、参加者の主体的な参加が難しいので、参加者の主体性を高めたい」との依頼を受けた。これは、小林(2002)の「公的機関が活動の企画・運営の主導権をもち、住民ボランティアが公的機関の

意向に追従するだけ」になっているという指摘に合致しており、多くの地域において見られる状況ではないかと考えられる。講演後の参加者のアンケートにも、「自動的に担当になったので、正直なところどの程度役に立っているのか、という思いがあった」などの回答が見られ、本活動の参加者の中には受動的、消極的な姿勢で参加し、活動の意義を感じられていない者も少なくなかったことが推測される。その結果、小林(2002)の説明モデル(図1)に示されている「民主的／効率的運営」にはなにくく、「地域に対する自己効力感」も感じにくい状況があったものと考えられる。また、活動の参加者は機関の代表であり、一、二年で交代するため、活動の結果が参加者内での共有に留まっており、「青少年に対する一般住民の働きかけ」を増加させることにつながっていないこともうかがえ、この活動が「少年非行の発生水準」の低下につながりにくいことが考えられた。

(2) 地域における非行防止活動に対する大学の役割

では、このような課題に対して、大学はどのような役割を果たせるのであろうか。

第1は、このような活動の意義を学術的なエビデンスを基に、きちんと示し説明することであろう。本研究で採り上げた青少年社会環境浄化事業のような地道なボランティア活動は、それに費やす労力の割になかなか成果が見えにくく、その意義を感じにくい傾向がある。それに加えて、上記のように、参加者は所属する機関から派遣され、受け身的に参加している場合が多く、活動に対するモチベーションは低下しやすい。このような参加者に対して、活動の意義をきちんと示すことは、モチベーションを高めるために重要である。本研究では、講演の中で、小林(2002)の説明モデル(図1)を示し、また現在の地域における非行の傾向を説明しながらこの活動の位置づけを明確にすることで、この活動の意義を示した。その結果、「今日の先生のお話を聞いて、データの集積の一端を担っていること、この活動により、わずかでも意義があることが感じられました。」「少年非行の発生を抑制することにつなげていける活動の大切さを痛感しました」といったアンケート結果に見られるように、参加者に活動の意義を示すことができたと考える。

また、「地区活動の持つ意義や価値づけなどが、学問的に裏付けられたり、意味づけられたりされることは、とても良かった。やはり、学術上に導かれた知見による理論づけは大切だと思った。」という回答に見られるように、大学教員が学術的なエビデンスを示しながらその意義を伝えることの意義が示唆された。

第2に、参加者の活動への主体的、積極的な参加を促すことが重要である。本研究においては、講演の中で、参加者自身が自分の活動への関わりを振り返る時間を設けた。このような方法は、大学教員が日常の講義の中で学生の主体的参加を促すために用いている手法の応用である。このような方法を採用できることに、大学が地域の非行防止活動に関わることの意義が見いだせると考える。その結果、「今回の講演を通して、自分たちがやっていたことはいいことだったんだと、自信が持ててよかったです。」というアンケート結果に見られるような参加者の自己効力感の増加につながったものと考ええる。

第3に、活動の問題点を分析し、すぐに取り組むことができる具体的な対策を提示することである。本研究においては、本活動の問題点として、3つの活動内容のうち、「広報・啓発活動」が十分になされていないことを分析し、具体的な対策として広報資料「かわら版」の作成を提言した。このように、すぐに取り組める対策を提示することは、「来年度、実際に広報誌を作成して、学校や店舗に配付して共有できると、より活動の効率が上がると思いました。」といったアンケート結果にも見られるように、参加者に具体的な方向性を与え、モチベーションを高める結果につながったと考えられる。また、本講演後、流山市も積極的にこの「かわら版」の作成に向けて活動を展開しているが、これも具体的な対策を示した効果であると考ええる。

6 終わりに

以上のように、地域の非行防止活動においては、参加しているボランティアの主体性やモチベーション、活動に対する効力感を高めることが大きな課題になっており、地域に所属する大学は、それを学術的に裏付けられた理論と技法で援助する役割が課せられており、また、その役割を果たす知見と手法を備えていると考ええる。

引用文献

- 小林 寿一(2002). 地域の非行防止活動の活性化について―地域レベルのプロセスと効果の検討― 犯罪社会学研究, **27**, 74-86.
- 流山市教育委員会生涯学習部生涯学習課青少年指導センター(2020). 令和元年度流山市青少年社会環境浄化の手引き, 25.
- 流山市教育委員会生涯学習部生涯学習課青少年指導センター(2021). 令和3年度流山市青少年社会環境浄化の手引き, 1-25.
- 室城 隆之(2021). 大学における心理相談センターの役割, 江戸川大学心理相談センター紀要**2**, 5-10.